

インフルエンザ予防接種 予診票

任意接種用

※接種希望の方は、太ワク内をご記入ください。

診察前の体温 _____ 度 _____ 分

住 所	TEL (_____) _____ - _____		
フリガナ	男	生年	_____ 年 _____ 月 _____ 日生
予防接種を受ける人の氏名	女	月日	(_____ 歳 _____ ヶ月)
(保護者の氏名)			

質問事項	回答欄		医師記入欄
1. 今日受けられる予防接種について説明文を読んで理解しましたか	いいえ	はい	
2. 今日受けられるインフルエンザの予防接種は今シーズン1回目ですか	いいえ (回目) 前回の接種は (月 日)	はい	
3. 【予防接種を受けられる方がお子さんの場合】 分娩時、出生時、乳幼児健診などで異常がありましたか	ある (具体的に)	ない	
4. 今日、普段と違って具合の悪いところがありますか	ある (具体的に)	ない	
5. 現在、何かの病気で医師にかかっていますか	はい (病名)	いいえ	
6. 最近1ヶ月以内に何か病気にかかりましたか	はい (病名)	いいえ	
7. 最近1ヶ月以内に近親者や周囲に麻疹、風しん、水痘、おたふくかぜ などにかかった方がいますか	いる (病名)	いない	
8. 最近1ヶ月以内に予防接種を受けましたか	はい (予防接種名)	いいえ	
9. インフルエンザの予防接種の際に具合が悪くなったことはありますか	ある (症状: _____)	ない	
10. インフルエンザ以外の予防接種の際に具合が悪くなったことが ありますか	ある (予防接種名: 症状: _____)	ない	
11. 今までに特別な病気 (先天性異常、心臓、腎臓、肝臓、血液、脳神経、免疫不全症、 悪性腫瘍、その他の病気) にかかり、医師の診断を受けたことがありますか	ある (具体的に)	ない	
(“ある”の場合) その病気を診てもらっている医師に、今日の予防接種 を受けて良いといわれましたか	はい	いいえ	
12. 今までにひきつけ (けいれん) を起こしたことがありますか	ある (ごろ 回くらい) (最後は 年 月ごろ)	ない	
(“ある”の場合) ひきつけ (けいれん) を起こしたとき、熱は出ましたか	はい (_____ °C)	いいえ	
13. 今までに間質性肺炎、気管支喘息などの呼吸器系疾患と診断された ことがありますか	ある (年 月ごろ) (現在治療中・治療していない)	ない	
14. 薬や食品 (鶏卵、鶏肉など) で皮膚に発疹やじんましんが出たり、 体の具合が悪くなったことがありますか	ある (薬、食品名)	ない	
15. 近親者の中に予防接種を受けて、具合が悪くなった方はいますか	いる (予防接種名)	いない	
16. 近親者に先天性免疫不全と診断されている方はいますか	いる	いない	
17. 【女性の方に】現在、妊娠していますか	はい	いいえ	
18. その他、健康状態のことで医師に伝えておきたいことがあれば具体的にご記入ください (投薬状況など)			

医師の記入欄：以上の問診および診察の結果、今日の予防接種は (可能 ・ 見合わせる)
本人 (もしくは保護者) に対して、予防接種の効果、副反応および医薬品医療機器総合機構法に
基づく救済について、説明した。
医師の署名又は記名押印

医師の診察・説明を受け、予防接種の効果や副反応などについて理解した上で、
接種を希望しますか。(接種を希望します ・ 接種を希望しません)
本人の署名(もしくは保護者の署名)

使用ワクチン名・メーカー名	接種量	実施場所・医師名・接種日時
使用したワクチンにチェックを入れてください。 インフルエンザHAワクチン <input type="checkbox"/> 「ビケンHA」 <input type="checkbox"/> フルービックHAシリンジ Lot No.	(皮下接種) <input type="checkbox"/> 0.25mL (6ヶ月以上3歳未満) <input type="checkbox"/> 0.5mL (3歳以上)	実施場所 医師名 接種日時 _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 時 _____ 分
一般財団法人 阪大微生物病研究会 (販売：田辺三菱製薬株式会社)		

インフルエンザワクチンの接種について

監修：菅谷 憲夫 慶應義塾大学医学部客員教授 日本感染症学会インフルエンザ委員 国際インフルエンザ学会 (ISIRV) 理事

インフルエンザとは

冬に流行するインフルエンザはインフルエンザウイルスによって起こります。インフルエンザウイルスには A 型、B 型及び C 型の 3 つの型がありますが、おもに流行するのは A 型と B 型となっています。現在国内で流行しているインフルエンザウイルスには、A (H1N1) 亜型、A (H3N2) 亜型、および B 型 2 種類 (山形系統、ビクトリア系統) があり、インフルエンザにかかっている人のくしゃみや咳などで飛び散ったウイルスを吸い込んだり、ウイルスが付着した手で触ったドアノブなどに他の人が触れ、その手で自分の口や鼻を触ることで感染します。

典型的なインフルエンザは 1～3 日くらいでのどの痛み、鼻水、咳、頭痛、倦怠感、寒気等の全身症状を伴って、急に高熱 (38℃以上) が出ます。関節痛や筋肉痛も伴い、高熱は 2～5 日続きます。お年寄りや、子供、体が弱っている人、妊婦、慢性の病気を持っている人などは、重症化したり肺炎をおこしたりします。子供ではけいれんや中耳炎などの合併症を起こすこともあり、まれに脳症といった重い病気に発展することもあります。

インフルエンザにかからないために

インフルエンザの流行シーズン前 (10月～12月) に予防接種を受けることが、最も重要な予防法です。また、外から帰ってきたときは手洗い、うがいを心掛けましょう。普段からの健康管理も重要です。栄養と睡眠を十分にとり、抵抗力を高めておくこともインフルエンザの発症を防ぐ効果が期待されます。



注意 予防接種を受ける前に

インフルエンザワクチンは、製造工程において発育鶏卵を使用しているため、微量ですが卵由来の成分が含まれています。そのため生卵を食べるとじんましんが出たり、あるいは特定の薬でアレルギー反応を起こしたことがある場合は、医師に相談してください。

また、次の人はインフルエンザワクチンの接種を避けてください。

- ① 37.5℃以上の発熱のある方
- ② 重い急性疾患にかかっている人
- ③ 過去にインフルエンザワクチンを接種してアナフィラキシーを起こしたことがある人
- ④ 医師が予防接種を行う事が不適当と判断した人

注意 予防接種を受けた後

予防接種を受けた後30分間は、急な副反応が起こることがありますので、接種医療機関でお待ちいただくか、医師とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。

接種部位の異常反応や体調に変化があった場合は、すみやかに医師の診察を受けましょう。



接種当日は過激な運動を控えましょう



接種当日の入浴は差し支えありません。接種部位を清潔に保ちましょう

インフルエンザワクチンでの副反応

インフルエンザワクチンを接種した後、注射部位が赤く腫れたり、硬くなる事があります。過敏症として、発疹、じんましん、湿疹、紅斑、多形紅斑、そう痒、血管浮腫、局所症状（注射部位）として、発赤、腫脹、硬結、熱感、疼痛、しびれ感、小水疱、蜂巣炎、精神神経系として、頭痛、一過性の意識消失、めまい、顔面神経麻痺、末梢性ニューロパチー、失神・血管迷走神経反射、しびれ感、振戦、消化器系として、嘔吐・嘔気、腹痛、下痢、食欲減退、筋骨格系として、関節痛、筋肉痛、筋力低下があらわれることがあります。その他の副反応として、発熱、悪寒、倦怠感、リンパ節腫脹、咳嗽、動悸、ぶどう膜炎があらわれることがあります。強い卵アレルギーのある方は、強い副反応を生じる可能性がありますので必ず医師に申し出てください。

また、非常にまれですが、次のような重大な副反応が起こることがあります。

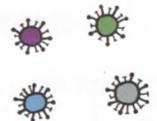
- ①ショック、アナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、血管浮腫など）
- ②急性散在性脳脊髄炎（ADEM：接種後2週間以内に発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害など）
- ③脳炎・脳症、脊髄炎、視神経炎
- ④ギラン・バレー症候群（両手足のしびれ・弛緩性麻痺、歩行障害など）
- ⑤けいれん（熱性けいれんを含む）
- ⑥肝機能障害、黄疸
- ⑦喘息発作
- ⑧血小板減少性紫斑病、血小板減少
- ⑨血管炎（IgA 血管炎、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、白血球破碎性血管炎など）
- ⑩間質性肺炎
- ⑪皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson 症候群）、急性汎発性発疹性膿疱症
- ⑫ネフローゼ症候群

このような症状が認められたり、疑われた場合は、すぐに医師に申し出てください。

インフルエンザワクチンにはどのような効果がありますか？

インフルエンザウイルスは、毎年少しずつ性質を変えるため WHO（世界保健機関）を中心とした世界中の専門家が、次に流行するウイルスタイプを予測します。その結果を踏まえてウイルスの種類（A 型は A（H1N1）亜型、A（H3N2）亜型の 2 種類、B 型は B/山形系統、B/ビクトリア系統の 2 種類 計 4 種類）と組合せを毎年決定し、インフルエンザワクチンが作られます。

このため、昨年インフルエンザワクチンの接種を受けた方であっても、今年のインフルエンザワクチンの接種を検討して頂く方が良い、と考えられます。インフルエンザワクチンは、インフルエンザの流行前（10 月～12 月）に接種します。生後 6 カ月～13 歳未満の方はおよそ 2～4 週間隔で 2 回接種、13 歳以上の方は 1 回またはおよそ 1～4 週間隔で 2 回接種します。2 回接種の場合の間隔は免疫効果を考慮すると 4 週間おくことが望ましいとされています。



インフルエンザワクチンは、発熱やのどの痛み等のインフルエンザの症状が出現する「発病」を抑える効果が一定程度認められています。

発病後、多くの方は 1 週間程度で回復しますが、中には肺炎などの重い合併症が現れ、入院治療を必要とする方や死亡される方もいます。これをインフルエンザの「重症化」といいます。インフルエンザワクチンの最も大きな効果は、「重症化」を予防することです。

特に高齢の方や基礎疾患がある方は重症化しやすいので、かかりつけ医とご相談の上、接種を受けることをおすすめします。

